

令和5年度 城山中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標 主体的な学び，豊かなまごころ，健やかな体を持ち，地域とつながりよりよい社会と未来の創り手となってたくましく生きる児童を育成する。

- 目指す児童像
- ・ 進んで勉強する子ども（かしこく：知）
 - ・ 思いやりのある子ども ・喜んで働く子ども（なかよく：徳）
 - ・ 健康で明るい子ども（たくましく：体）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「まごころふれあう城山中央小学校」

—児童が仲間と楽しく学び，居がいを感じる学校づくり—

- ・ 児童が仲間と楽しく学び，自己有用感や帰属意識等の居がいを感じる学校
- ・ 保護者や地域住民から学校の取組に信頼が寄せられる学校
- ・ 教職員が子どもとふれあい，教え育てる喜びを感じる学校

以上の実現を目指し，学校が家庭や地域と手を携え，まごころふれあう学校経営を展開していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1） 児童が仲間と楽しく学び，居がいを感じる学校づくり

- ① 児童一人一人が考え，自ら活動する主体的な学びの実現を図るため，充実した学級経営による教育活動を展開する。
- ②○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のため，考えや理由を明確にできる思考力等を育む。
- ③○「まごころ教育」等の充実により，思いやりや自然愛護等のまごころを培い，活動の源となる体力の向上に努める。

（2） 教職員が子どもとふれあい，教え育てる喜びを感じる学校づくり

- ① 課題解決に協働する教職員集団づくり及び主体的に指導力を向上する人材育成に努める。
- ② 働きがいと豊かな生活の調和を意識しながら職務を遂行できるように，働き方改革を継続する。

（3） 保護者や地域住民から学校の取組に信頼が寄せられる学校づくり

- ① 歴史と伝統を踏まえ，教育の精神や校風を継承し，GIGA スクールの構想やSDGs等を視野に入れた発展に努める。
- ② 社会に開かれた教育課程を具現化するために，地域の教育力を生かした教育活動を充実する。
- ③○学校園教育ビジョン小中一貫教育を推進するとともに，学校園との連携による地域の特色を生かした教育を推進する。

【城山地域学校園教育ビジョン】

ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

みんなで育てよう！自分を愛し，仲間を愛し，地域を愛する城山っ子

4 教育課程編成の方針

日本国憲法，教育基本法，学校教育法，小学校学習指導要領，栃木県「指導の指針」，「宇都宮市学校教育推進計画」・「宇都宮市学校教育スタンダード」・「指導の重点」に基づき，教育目標達成のための経営方針や努力点，学校評価の反省を十分踏まえて編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1） 学校運営 ○学ぶ楽しさ，仲間がいる楽しさ，居がいのある学校づくりの推進

（2） 学習指導 互いに認め合い，主体的に学ぶ児童の育成
～居がい，やりがい，学び合いを目指した算数の指導を通して～

（3） 児童生徒指導 ○思いやりの心を持ち，決まりやルールを守り，主体的な行動ができる児童の育成
～児童と児童，児童と教師のコミュニケーションをより深めることを通して～

（4） 健康（保健安全・食育）・体力 仲間と楽しく，意欲的に健康や安全，運動について学ぶ児童の育成
～活動量を確保した体育授業の実践や体を動かしたくなる体育環境の整備を通して～

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が考え, 自ら活動する主体的な学びの実現 ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と, それらを活用する力の育成 ・各教科等の「見方・考え方」を働かせた, 学び合いなどの協働的に課題を解決する学習活動の充実 ・探究心をかき立てる体験活動の工夫 	A	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 405 1458 566"> <tr><td>児童</td><td>85.1%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>81.2%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>88.9%</td></tr> </table> <p>落ち着いた態度で学習に取り組んでいるが, 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得が十分ではない。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組を継続し, 基礎・基本をしっかりと身に付け, 自分の考えを表現できるように根気強く支援を行う。 	児童	85.1%	保護者	81.2%	地域住民		教職員	88.9%
児童	85.1%											
保護者	81.2%											
地域住民												
教職員	88.9%											
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の推進 ・人権感覚・人権尊重の態度の育成を目指した指導の充実 ・教師一人一人の意識の高揚 ・人権週間・いじめゼロ運動の効果的な実施 ・望ましい集団・居がいのある学級づくり ・学級活動やなかよし班活動での「みんなで遊ぶ日」の時間の工夫と充実 ・なかよし班を通した縦割り班活動の工夫と活性化 ・状況に応じた言葉遣いの励行 ・自然や人との関りの両面から児童の主体性と豊かな心を育て, まごころ教育を進める。 	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 882 1458 1043"> <tr><td>児童</td><td>93.1% ↓</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>89.9% ↓</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100% ↑</td></tr> </table> <p>学校目標に応じて, 各学級で居がいのある学級づくりに努めた。児童・保護者ともに数値が下がったが, どちらも90%程度の高い数値を保っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP や回覧板等で, 学校の取組について地域に周知をしていく。 ・縦割り班活動を活用できるような取組をしていく。(まごころ清掃など) 	児童	93.1% ↓	保護者	89.9% ↓	地域住民	100% ↑	教職員	100% ↑
児童	93.1% ↓											
保護者	89.9% ↓											
地域住民	100% ↑											
教職員	100% ↑											
	<p>A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的解答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・折れない心・やり抜く心など心のたくましさに気付かせる授業の展開や実践の工夫 ・各種検定等, 児童が目標を持って取り組める機会の確保 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・認め励ます指導の徹底 	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1503 1458 1664"> <tr><td>児童</td><td>90.4%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>77.5%</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>教育活動全体を通して, 児童一人一人がそれぞれの目標をもって活動できるよう, 指導に当たってきた。児童・教職員ともに, 数値目標を上回ったが, 保護者の肯定的回答が2.5ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人懇談や学年便り, HP等で, 学校の取組や児童の頑張り等を積極的に発信していく。 	児童	90.4%	保護者	77.5%	地域住民		教職員	100%
児童	90.4%											
保護者	77.5%											
地域住民												
教職員	100%											

1- (3)
健康で安全
な生活を実
現する力を
育む教育の
推進

A 4 児童は、健康や安全に
気を付けて生活してい
る。

【数値指標】

- ⇒児童の肯定的回答
90%以上
- ⇒教職員の肯定的回答
90%以上
- ⇒保護者の肯定的回答
90%以上

- ・自己の基本的な生活習慣を見直し、改善が図れるような指導の工夫と児童や保護者への啓発
- ・養護教諭と連携した保健の授業の実施
- ・委員会活動を通じた健康に関する啓発活動の実施
- ・各種検定や全校で取り組む強化月間の実施
- ・体育の授業、体育的行事を核とした体力づくりの実践
- ・元気っ子健康体力チェックの活用
- ・委員会活動を通じた体力向上に関する啓発活動の実施
- ・学校栄養士と連携した各教科や特別活動等における食育の実施
- ・「食育だより」等を活用した食への関心を高める工夫
- ・委員会活動を通じた食に関する啓発活動の実施
- ・地域と連携した登下校時の安全確保
- ・交通安全教室や各種避難訓練等の適切な実施

【達成状況】

児童	91.0%
保護者	83.3% ↓
地域住民	94.4% ↓
教職員	100%

児童・保護者・地域住民、いずれの回答においても肯定的回答の割合が昨年度を下回ったが、教職員の肯定的回答の割合は昨年度に引き続き 100%となった。新型コロナウイルス感染症が5類移行したことにより、それぞれの立場において、感染症対策への多様な考え方が生じてきたことが一因と考えられる。

【次年度の方針】

- ・全校体制で保健教育、給食指導の共通理解を図り、各種たよりの有効活用を行うだけでなく、日々の健康に関する取組を校外に発信していく。
- ・発達段階に合わせて、各教科、学級活動における養護教諭や学校栄養士と連携した授業を実施し、家庭でも振り返るような取組を行っていく。
- ・体育の授業でのがんばりカードや、元気っ子チャレンジ、ミニマム等を活用し、児童が目標をもって継続的に体力向上に取り組めるように支援を続けていく。
- ・地域と連携した登下校指導を継続していく。
- ・健康で安全な生活について、日常生活の中で常時指導を続けていく。

B

1- (4)
将来への希
望と協働す
る力を育む
教育の推進

A 5 児童は、自分のよさや
成長を実感し、協力して
生活をよりよくしようと
している。

【数値指標】

- ⇒児童の肯定的回答
90%以上
- ⇒教職員の肯定的回答
90%以上

- ・係や当番等での自分の役割を自覚し、友達と協力して活動できる場の設定
- ・キャリアパスポートの有効活用
- ・児童会活動によるまごころ教育の充実
- ・日常の清掃、まごころ清掃、みんなで遊ぶ日等におけるまごころ班活動の活性化
- ・緑の少年団活動の工夫

【達成状況】

児童	87.5%
保護者	
地域住民	
教職員	100%

児童会活動の充実や各クラスでの係や当番活動の工夫を行ってきたが、児童の肯定的回答が数値目標を下回った。

【次年度の方針】

- ・児童が頑張ったことや取り組めたことを、宮・未来キャリア・パスポートに記入し、掲示をすることで意識を高める。
- ・縦割り清掃やまごころ清掃を継続し、異学年での交流を通し、協力する意識を高める。

A

2- (1)
グローバル
社会に主体
的に向き合
い、郷土愛
を醸成する
教育の推進

A 6 児童は、英語を使って
コミュニケーションして
いる。

【数値指標】

⇒児童の肯定的回答

85%以上

⇒教職員の肯定的回答

80%以上

・外国語科や外国語活動の教材の充
実・環境整備

・コミュニケーション能力の育成を
目指した言語活動の充実

・外国語学習を補完する授業内容の
充実

・授業における積極的なALTとの
交流の機会

【達成状況】

児童	70.7% ↓
保護者	
地域住民	
教職員	100% ↑

英語の授業において、ペア・グループ
での学習やプレゼンテーションの機会
を取り入れた。教師側は十分な機会を設
けているが、児童の満足度を高めるよう
な手立てを考えていく必要がある。

【次年度の方針】

・外国語活動、外国語科の教材の工夫や
環境整備に努め、さらなる指導の充実を
図っていく。

・コミュニケーション能力の育成を目
指した言語活動を多く取り入れること
を意識し、授業の工夫・改善に努める。

B

A 7 児童は、宇都宮の良さ
を知っている。

【数値指標】

⇒児童の肯定的回答

85%以上

⇒教職員の肯定的回答

85%以上

・生活科・社会科・総合的な学習の時
間(宇都宮学)や校外学習等におけ
る指導内容の工夫や改善

・宇都宮や城山地域など郷土への愛
情を育む学習の推進

【達成状況】

児童	81.9% ↓
保護者	64.2% ↓
地域住民	
教職員	94.4% ↑

児童は地元大谷のことをよく学習し、
理解している。

【次年度の方針】

・現在行っている様々な取組を継続し、
地元大谷を中心として、宇都宮に対する
知識理解をさらに身に付けられるよう
に努める。

B

2- (2)
情報社会と
科学技術の
進展に対応
した教育の
推進

A 8 児童は、デジタル機器
や図書等を学習に活用し
ている。

【数値指標】

⇒児童の肯定的回答

90%以上

⇒教職員の肯定的回答

90%以上

・デジタル教科書、AIドリルの活用

・クロームブック・デジタル機器を活
用した授業の展開

・情報モラル教育に関する授業の展
開

・学習内容の時期に合わせた関連図
書の整備

・市立図書館を利用した学級文庫や
調べ学習用図書の充実

【達成状況】

児童	86.2% ↓
保護者	73.2% ↓
地域住民	
教職員	100%

授業だけでなく、委員会活動や係活動
でICT機器を積極的に活用している
が、児童の実感としては不十分であ
った。

【次年度の方針】

・ICT機器を児童が進んで活用でき
るような環境や手立てを工夫していく。
・本校の充実した図書資料をさらに活
用することができるような授業の取
組みを工夫・改善していく。

B

<p>2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 70%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・節電・節水・リサイクル活動の実施 ・「緑の少年団」活動を通じた自然愛の醸成 ・各教科や日常生活の中でのSDGsを意識させる指導の工夫や掲示物などの環境作り ・土砂災害を想定した避難訓練の実施 ・自然災害を取り上げた学習内容の工夫 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>86.2% ↓</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>88.9% ↑</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>SDGsへの関心が高く、各教科の学習の中でも取り上げる機会が多かった。教材や配付物等では、ペーパーレス化が進められていた。 【次年度の方針】 ・次年度も環境問題や防災等について取り上げ、各教科において指導を継続していく。</p>	児童	86.2% ↓	保護者		地域住民		教職員	88.9% ↑
児童	86.2% ↓										
保護者											
地域住民											
教職員	88.9% ↑										
<p>3-(1) インクルーシブ教育システムの実現に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画による指導の充実 ・学級との交流や連携を図った指導の推進 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした教育支援委員会の開催と共通理解 ・多様なニーズの理解と支援方法の明確化 ・学級における配慮児童の「かがやきルーム」の活用個別の指導計画の策定 ・ケース会議による指導方針・成果と課題の明確化、及び情報共有 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>教育支援委員会などを開き、組織的な対応ができた。またかがやきルームを通して、個に応じた支援の充実を図ることができた。 【次年度の方針】 ・特別な支援を要する児童の実態を把握し、個に応じた支援につなげられるよう組織的な対応を充実させる。</p>	児童		保護者		地域住民		教職員	100%
児童											
保護者											
地域住民											
教職員	100%										
<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組の推進 ・「いじめ等対策委員会」の活用 ・「いじめゼロ強調月間」の充実 ・いじめ根絶集会の実施 ・定期的なアンケートの実施と教育相談の充実 ・潤いのある学校環境の整備 ・「さん」付けの呼び方の徹底 ・職員間での情報の共有 ・学校便りやホームページでの周知 ・道徳科の授業公開 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>98.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.3% ↑</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>B</p> <p>教職員は、いじめに対する危機意識を常に持って児童の指導にあたっており、児童も十分理解している。定期的なアンケートの実施や教育相談が充実したことも挙げられる。 【次年度の方針】 ・児童の日々の生活の様子を的確に把握することによって、いじめに結び付くような諸問題を早期に発見し、迅速に対応する。問題が起きた場合は、その都度記録をとり、必要に応じて指導の経過を保護者に伝え、家庭と連携しながら基本方針に沿って指導にあたる。</p>	児童	98.9%	保護者	86.3% ↑	地域住民	100%	教職員	100%
児童	98.9%										
保護者	86.3% ↑										
地域住民	100%										
教職員	100%										

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校・不適応等特別な教育的支援が必要な児童への対応 ・日常の観察・教育相談・Q-U調査等の実施による早期発見・早期対応 ・ケース会議等による支援方法の明確化 ・関係機関との連携と紹介 ・職員間での情報の共有 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・認め励ます指導の徹底 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>97.9% ↓</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.9% ↓</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>教職員は、日頃から児童の様子を観察し、必要に応じて、教育支援委員会やケース会議等を行い、学校全体で対応している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き、的確に児童の様子を把握することで、早期発見・対応に努める。必要に応じて家庭訪問の実施や面談を行い、家庭と連携しながら児童一人一人に合った支援を行っていく。 	児童	97.9% ↓	保護者	86.9% ↓	地域住民		教職員	100%
児童	97.9% ↓										
保護者	86.9% ↓										
地域住民											
教職員	100%										
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談・いじめに関するアンケート・Q-U調査の実施により、学級内のよりよい人間関係づくりに努める。 ・児童一人一人を認め励ます指導を推進する。 ・職員間の情報交換の推進・機会の確保 ・適切できめ細やかな保護者への連絡による信頼関係の構築。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>96.3% ↑</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>85.2% ↓</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>教育相談などの実施により、児童の実態の把握ができ、学級内のより良い人間関係づくりが充実できた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が生き生きと学校生活を送れるよう、職員間の情報交換の推進・機会の確保の充実を図る。 	児童	96.3% ↑	保護者	85.2% ↓	地域住民	100%	教職員	100%
児童	96.3% ↑										
保護者	85.2% ↓										
地域住民	100%										
教職員	100%										
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導技術の確立と授業時数の確保 ・教科担任制・TT指導等の効果的实施 ・学校だより、ホームページ等による学習についての情報提供 ・クロームブックの有効活用 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <td>児童</td> <td>98.9% ↓</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>85.2% ↑</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>習熟度別学習を取り入れたことで、児童一人一人の学習状況を把握し、学習指導の工夫・改善を図った。</p> <p>タブレット型パソコンを活用した授業の工夫・改善に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあての提示・振り返りの充実とともに、タブレット型パソコンを活用した学習指導の工夫・改善を図り、児童にとってより「分かる授業」を目指したきめ細かな指導を図っていく。 	児童	98.9% ↓	保護者	85.2% ↑	地域住民		教職員	100%
児童	98.9% ↓										
保護者	85.2% ↑										
地域住民											
教職員	100%										

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の諸問題への組織的な対応 ・学校行事の準備・運営等への協力 ・職員の得意分野を生かした組織づくり 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td></td></tr> <tr><td>保護者</td><td></td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>B 職員全員が協力して組織的に業務に取り組んできた。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、気軽に相談できる環境づくりに努め、報告・連絡・相談を確実にしていく。</p>	児童		保護者		地域住民		教職員	100%
児童											
保護者											
地域住民											
教職員	100%										
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の明確化 ・学校の組織運営や各種行事等の実施方法の工夫・改善 ・学習情報システム等の各種システムの効果的な活用の推進 ・担当業務の効率的な実施や見通しを持った計画的な処理 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td></td></tr> <tr><td>保護者</td><td></td></tr> <tr><td>地域住民</td><td></td></tr> <tr><td>教職員</td><td>94.4% ↓</td></tr> </table> <p>B 行事の精選や日課の見直しなどを図り、業務の効率化に取り組んできた。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、行事の精選や日課の見直しなど、全体で随時検討しながら考えていく。</p>	児童		保護者		地域住民		教職員	94.4% ↓
児童											
保護者											
地域住民											
教職員	94.4% ↓										
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の相互乗り入れ授業を計画的に実施する。 ・小中合同の行事や活動に積極的に取り組む。 ・小中合同のあいさつ運動の推進 ・宮っ子チャレンジウィークにおける積極的な受け入れ 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>97.4% ↑</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>91.2% ↑</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100% ↑</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>B 乗り入れ授業やあいさつ運動の活動を工夫して実施した。また、オンラインを活用した交流も実施した。 【次年度の方針】 ・地域学校園の小中学校と協力し、継続して取組を行っていく。 ・オンラインを活用した取組を工夫していく。</p>	児童	97.4% ↑	保護者	91.2% ↑	地域住民	100% ↑	教職員	100%
児童	97.4% ↑										
保護者	91.2% ↑										
地域住民	100% ↑										
教職員	100%										
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の協力や企業・団体等の専門性を生かした学習を推進する。 ・学校支援ボランティアの有効活用を推進する。 	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>児童</td><td>92.6% ↑</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>92.2% ↑</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>100%</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>100%</td></tr> </table> <p>B 地域人材や学校支援ボランティアの協力により、充実した教育活動ができた。 【次年度の方針】 ・今後も地域の教育力を活用したり、企業や団体等との連携を図ったりしながら、活動方法の工夫・改善に努める。</p>	児童	92.6% ↑	保護者	92.2% ↑	地域住民	100%	教職員	100%
児童	92.6% ↑										
保護者	92.2% ↑										
地域住民	100%										
教職員	100%										

6-(1)
安全で快適な
学校施設
整備の推進

A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。
【数値指標】
⇒教職員の肯定的回答 90%以上
⇒保護者の肯定的回答 90%以上

- ・毎月の安全点検の実施
- ・危険箇所等の迅速な報告・修繕
- ・消防隊員によるAED研修及びエピペン実技研修の実施
- ・保護者と連携して環境整備等を行い、安全で安心な学校づくりに努める。

【達成状況】

児童	
保護者	90.6% ↓
地域住民	100%
教職員	100%

・保護者については、昨年度の肯定的回答の割合を下回ったが、9割以上の肯定的回答となった。安全な環境づくりに関する取組については、多くの肯定的回答を得ることができたため次年度も保護者や地域と連携を図りながら、実施していきたい。

【次年度の方針】

- ・学校・保護者・地域・関係機関が相互連携して、安全で安心な学校づくりを推進する。また、迅速な対応や多方面からの情報の収集によって、保護者や地域住民の信頼を得られるように努めていく。
- ・職員研修を通して、緊急時の対応について学べるようにする。

B

6-(2)
学校のデジタル化推進

A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。
【数値指標】
⇒教職員の肯定的回答 90%以上

- ・授業準備や授業、業務の際の、一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなどの積極的な活用
- ・ICT支援員との連携

【達成状況】

児童	
保護者	
地域住民	
教職員	100%

タブレット型パソコンでの調べ学習やまとめ、ネクストスマイルドリルの活用など、積極的にICT機器を活用する学習に取り組んだ。

クラスルームを活用して、児童への連絡や児童からの提出物の回収などにおいて、活用される場面が見られた。

【次年度の方針】

- ・学習場面での調べ学習やまとめ・共同的な学びなど、児童の学びが深まるように、タブレット型パソコンのより効果的な活用の充実を図っていく。

A

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等

B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。
【数値指標】
⇒児童の肯定的回答 90%以上
⇒保護者の肯定的回答 80%以上
⇒地域住民の肯定的回答 70%以上

- ・家庭及び地域協議会と連携した地域ぐるみの「あいさつ運動」の展開
- ・小中合同の「あいさつ運動」の推進
- ・ホームページや、デジタル連絡ツールでの周知

【達成状況】

児童	95.2% ↑
保護者	79.5% ↓
地域住民	87.5% ↑
教職員	94.4% ↑

学校で挨拶の習慣化に努めてきた。地域住民・教職員も共に肯定的回答が増えた。

【次年度の方針】

- ・地域住民へのあいさつに関して、教室での指導とともに、登下校指導時に積極的に声掛けをしていく。
- ・家庭内でも、挨拶がきちんとできるような児童の心や態度を育てていけるように、学校で指導する。

B

	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>⇒児童の肯定的回答 85%以上</p> <p>⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>基本的な生活習慣と規範意識の育成</u> ・ 生命や人権尊重を題材とした授業（道徳・学級活動等）の実施 ・ 「城央小のよい子」を活用した、統一的・継続的な指導 ・ <u>家庭・地域・関係諸機関との連携</u> 	<p>【達成状況】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>児童</td> <td>92.0% ↑</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>92.8% ↓</td> </tr> <tr> <td>地域住民</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>学校全体で、統一的・継続的な指導を行ったため、児童の肯定的回答が上昇した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「城央小のよい子」をベースに、全職員の共通理解のもとで指導・支援にあたり、児童一人一人がきまりやマナーを守って生活できるよう、根気強く取り組む。 ・ H P や学級懇談会等で、学校での取り組みについて保護者に周知していく。 	児童	92.0% ↑	保護者	92.8% ↓	地域住民	100%	教職員	100%
	児童	92.0% ↑									
保護者	92.8% ↓										
地域住民	100%										
教職員	100%										
B											

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の地域住民の肯定的回答の割合が昨年度より上昇した。地域ぐるみで「あいさつ運動」に取り組んできた成果が表れた。今後も学校と家庭・地域が連携しながらで取り組んでいくことで、地域ぐるみでよい習慣が根付いていけるとよい。

○A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」については、昨年同様、保健だより発行や養護教諭が各教室を回っての保健指導などを通して啓発活動を行い、手洗い、換気の徹底、ソーシャルディスタンスをとるための工夫など、継続して新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にも力を入れてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、感染症対策への多様な考え方が生じたこともあり、児童・保護者・地域住民、いずれの回答においても肯定的回答の割合が昨年度を下回った。今後の取り組みとしては、これまで取り組んできた保健・食事・体育での指導が全て健康と関わっているということが児童や保護者に伝わるように発信し、健康についての指導内容について家庭と共通理解していく必要があると考える。安全では、一斉下校における下校指導や地震、竜巻の避難訓練などを通して、安全教育の充実を図ることができた。これらの取組を可能な範囲で今後も継続して実施し、健康で安全な生活ができるように指導していきたい。

○A5「児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」の児童の肯定的回答の割合が90%を下回っている。キャリアパスポートを活用し、振り返りを行い教室に掲示することで、児童の意識を高める。

・A7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」の児童の肯定的割合が昨年度よりも低下している。地元大谷の理解は深まっているが、宇都宮市全体の理解が不十分であると考えられるので、大谷だけでなく宇都宮市全体の学習を充実させていく。

○A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」では、児童、保護者ともに、肯定的回答が数値目標を上回っている。タブレット型パソコンを積極的に活用して学習活動に取り組んでいるので、今後も児童の学ぶ意欲をさらに高め、多様な社会の変化に対応できる学力を確実に身に付けさせるために、分かる授業の展開やきめ細やかな指導の充実を図っていくようにする。

7 学校関係者評価

○B1 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」について

個人差は見られるものの、進んで明るく元気に挨拶のできる児童が増えてきている。登下校に付き添っている大人が大きな声で挨拶している班は声大きい。大人が子どもたちに声を掛け、挨拶の良さを示すことで、班長等の高学年児童を中心に、さらに挨拶の輪が広がっていくだろう。

「朝の見守り活動」では、保護者が当番を決めて順番に横断歩道などで立哨していてすばらしい。多くの人が子どもの安全を守ってくれている。また、魅力ある学校づくり地域協議会主催の「あいさつ運動」により、学校と地域が一体となり、挨拶のできる子供たちを育て、学校と地域の交流が深まっている。

○A17 「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」について

児童生徒の小中一貫教育に係る活動は、コロナ禍以前の活動が再開されてきており、教職員の地域学校園に係る連携が活性化されてきている。保護者や地域住民に教職員の取組を紹介すれば、理解が深まるのではないかと思う。

○質問項目にはないが、「学校が好き」と感じる児童が90%だったとしても、10%の児童を迎え入れることが大切だと考えている。地域にできることとして、魅力協行事等の楽しさを味わわせることで学校を楽しいと感じられるようにしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、内容を精選しながら以前の教育活動を再開してきた。学校・保護者・地域で連携を図り、協力しながら「学校ビジョン」の達成を目指して取り組んできた。評価項目についての肯定的回答の割合については、ポイントが上昇したものの下降してしまったものと様々であったが、コロナ禍を含めたこれまでの取組を振り返り、修正・改善を加えながら実施してきた取組をさらに充実させながら再構築していくことで、これまで以上に地域に信頼され、地域の核となる学校づくりを推進していきたい。そのために、下記のような3つのプロジェクトを組織し、全職員が学校経営に参画できる工夫を行い、次年度の学校ビジョンに反映させていく。

